

令和元年度 金沢市森づくり市民会議（第1回）

日 時：令和元年6月12日（火） 13時30分～15時00分

会 場：金沢市役所4階 兼六会議室

出席委員：石原委員、岩田委員、上田委員、河崎委員、千田委員、橘委員、都野委員、中川委員、
能木場委員、増江委員、森委員、安田委員、山田委員、山本委員

欠席委員：竹田委員

（五十音順 敬称略）

事務局：山田農林水産局長、西川森林再生課長 ほか3名

【次第】

1. 開会
2. 議事
 - (1) 令和元年度森林再生施策の取り組みについて
 - (2) 森林環境譲与税の取り組みについて
3. 意見交換
4. 閉会

【議事録】

事務局より説明

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 令和元年度森林再生施策の取り組みについて(2) 森林環境譲与税の取り組みについて |
|---|

（会長）

事務局から森林再生施策と森林環境譲与税の取り組みについて説明があったが、意見等はないか。

（委員）

会議の位置づけについて、金沢市の森林の現状が見えない。現状と課題、それに対する市の方針を示してもらおうと話がしやすい。部分的な施策ではなくて、全体の話があるといい。

また、事前に資料を送ってほしい。

（事務局）

プランの15ページの「森づくりの課題と現状」が資料としては分かりやすいかと思う。次回は事前に資料を送る。

（委員）

森林環境税についての用途については、急峻な山の手入れや広葉樹への転換等に用いて、森林の価値を前面に押し出した森づくりを進めるのが良いのではないか。

（会長）

市で植林をすすめているが、このような樹種を植えるという方針があるのか。

（事務局）

民有林においては、市内で植樹を進めているが、実際は、スギよりは薪として利用できるクヌギやコナラを植えたい方が多い。スギを植えて伐採しても収益があがりにくいという現状がある。

(会長)

市有林はどうか。

(事務局)

市有林に関しては、スギ人工林が中心で、適切に育てている。

(委員)

手入れしにくい場所は、市有林であっても、広葉樹を植えてほしい。

(事務局)

戦後は、成長の早い針葉樹を植えてきた。手入れされていない針葉樹林は根が浅く、土砂災害で木が流出するとも言われている。今後森林環境譲与税を活用し、どんな樹種を植えていくか、関係者と相談しながら決めていきたい。

(委員)

クヌギは、きのこの原木にもなるし、お茶炭にもなる。お茶の炭はほとんど県外から入っており、少しでも金沢のものでできるといい。

(委員)

近くの山の森で子供たちが遊んでいたが、いきなり開発され、すっかり景色が変わってしまった。キイチゴをとれるような、みんなが足を踏み入れたくなる森が良い。子どもを育てていく環境づくりが大事だ。

(委員)

この会議の役割がよくわからない。新しい予算でどういうことをしていけばいいかという意見を募る場なのか。それとも、予算がなくてやれていないことがあるので、意見を聞きたいということなのか。あるいは、市の方が全く思いつかない自由な意見を求めているのか。

森に関わる人材を育てるようにしてほしい。今は就職しやすいので、優秀な人材は民間に行ってしまう。農業や漁業はどういう人材が欲しいか分かるが、林業の行政職の公募は、それが不明確だ。施策を立案できる人を育てることが長期的には良いのではないか。

(会長)

会議の役割は、事務局も決めかねているのではないか。

林業は農業と比べてスパンが長く、結果が出るのに40年くらいかかる。今後の森づくりはどうかというのをこの会議で、少しでも提案ができるように目指していったらいいのではないか。

(委員)

農業や漁業は、どうしたらお金になるかというのが分かりやすいが、林業は、生業とすることが難しく、人が育ちにくい。難しい問題だ。

(会長)

生産材として林業を成り立たせるのはかなり難しい。森を利用して何かをするといった、森の多面的な部分を活用していくという方向はあるかもしれない。

(委員)

中山間地域の活性化のため、特用林産物の栽培を行っており、山椒の栽培を提案し、出荷している。その中で、山の中に入りたいという人の受け皿になり、ルールや山菜採取のマナーを教えている。山の実情を知ってもらうためのきっかけづくりも大切。

(委員)

転勤で、県内の水源の多さを実感した。森林と水の関係性に興味湧くようなボランティアやイベントを実施してはどうか。

水源としての森をアピールし、水と森に焦点を絞ってみては。

(委員)

市内で、竹林と広葉樹の比率は。

(事務局)

おそらく竹林はひろがっているの、資料よりもっと大きくなっているのではないか。

(委員)

せっかく各分野の専門家が集まっているので、それぞれの分野から「価値のある森」について発表し、共通の目標を考えていくのがいいのではないか。森の価値がなくなってしまうのが問題の根源だ。

木材産業分野の立場から、木の良さ、価値を実際に知っている人は少ないと感じている。屋内や外構でも、木に見えるけど木ではないものであふれている。本物の木を使用することで、金沢の街並みの価値は上がる。木材の使い方を一緒に考えて木の価値を上げ、森の価値につなげていく会議にしていくのがいいのではないか。

(委員)

建築の視点からは、今の世代が植えた木を、次の世代の人が使う林業はロマンだと思っている。

資料を見ると、森林組合の作業員が若返っている。他の分野ではめったにみられない。今は昔植えた木が活用を待っている状態。仕事で町家の改修を行っているが、それが金沢産材であればもっと素晴らしいと思う。本物の木にはたくさんの可能性がある。

(委員)

今は植えるのではなく、伐採する時代になっている。今年も高校生が2人組合に入った。2人とも楽しんでやっている。また、イベントを実施しても、参加者は若い人が多く、自然に対して、より興味があるようだ。

今の若い人は給料より、自分がこの会社で何ができるか、何を得られるかといった点で会社を選んでいる。彼らが、将来やりがいや達成感を得られるような職場になればいいと思う。

(委員)

各分野で、市民目線の森づくりという観点から思いがあるのは伝わったが、せっかくプロフェッショナルが集まっているのだから、理想の森づくりとはどういうものか、各委員で考えたうえで、次回具体的に詰めていけば良いのではないか。

(委員)

森林環境譲与税は、林業経営に適したところは担い手に任せ、適さないところは市が管理するということだが、どのようなことに使うことを想定しているのか。夕日寺で山歩きができるように、地域で森林整備をしているが、地元だけではなかなか難しい。地域の団体の支援にも活用できればいいのだが。

(事務局)

譲与税は、基本的には間伐に使っていく予定で、全体として10年程度かかるとみている。財源が確保できれば、間伐以外の活動費に充てることも検討している。

(委員)

山は、固定資産税まで払って持つ価値が無くなっており、孫に残す前に処分したいという話を聞いた。山を法人や外国人などの、身元の分からない者が買ったりするのが不安だ。山が欲しいという人と山を売りたいという人のマッチングはできないか。きちんと所在の分かる人が持つことが、将来的に金沢市の山を守ることになるのではないか。

(会長)

森林経営管理制度というのは、一時的にでも、管理できない山を市が受けて、管理していくことを想定しているのか。

(事務局)

新しい制度については、所有者の意向も聞いて、山林を持ちたいと考えている人とのマッチングができるか検討していきたい。

(委員)

手入れ不足の森の整備を長年行ってきた。もし荒廃した場所があれば、ご紹介いただければさらに整備していきたいと思っている。

(会長)

市民会議をどうしていったらいいかということが中心になったが、良い議論だったと思う。それぞれの理想の森の形も違う、まとめるのは難しいかと思う。

自分としては、身近な森の整備が重要だと考える。子どもにとってとても大事な小学校低学年の時期に、ふれあえるような森づくりに取り組んでほしい。こうした各々の今後のビジョンを次回以降話ができたらいい。また、広葉樹が大事という話もあったが、生業としては針葉樹も大事。この地域はこうした活用をするということを示した、マスタープランをマッピングしたものを作っていくのはどうか。森林再生課だけではできないと思うので、他課にも検討してもらいたいかもしれない。

さて、次回はどういう森づくりがよいのか、各委員の意見をもらって、森の売買や権利をどこまで管理できるか制度的な話もできればよい。

事務局で会議の進め方を検討し、まず次回はその説明からお願いしたい。

(事務局)

年2回だが、時間が足りないかと思っている。時間延長や、回数増加、又、委員への事前の資料提供など、会長と相談して改善していきたい。